

## 『サイエンスカフェ』 in 文部科学省情報ひろば

主 催： 日本学術会議、文部科学省  
日 時： 平成28年9月23日（金）19：00～20：30  
場 所： 文部科学省情報ひろばラウンジ（旧庁舎1階）  
テ ー マ： 被災者の復興感と災害復興－そして、事前復興学の発想と可能性  
講 師： 中林 一樹さん（明治大学政治経済学研究科・特任教授、日本災害復興学会会長）  
ファシリテーター： 山川 充夫さん（日本学術会議会員、帝京大学経済学部地域経済学科長・教授）  
参加人数： 18名

災害はいつ始まって、いつ終わるのか。自然現象であれ、人為的な事故であれ、その外力が地域に被害を及ぼしたときに災害が始まり、その事態を修復し、被災を回復し、復興が完了したときに、災害は終わる。災害対策は災害発生前の被害防止の取り組みから取り組み、災害復興は、災害の最後のステージであるが、最も長い時間を必要とし、費用負担も最も大きい取組である。災害対応対策とは、発災後に運用する取組であるが、それは事前に準備しておくことが不可欠であるし、その対応が最もうまく機能するためには、被害の軽減が不可欠で、災害対策とは事前に実施しておかなければ意味がない。事前の準備も被害軽減の取組もない災害対応は「負け戦」でしかない。災害復興対策も、事前に準備し、できるところから実践しておく“事前復興”の取組が重要になってきている。

高齢社会化・成熟社会化していく21世紀の災害復興とは何か。復興の主体たる被災者の復興とは何か。どのように復興の準備をし、どのように事前に地域社会やまちで取り組み、実装しておくことが、被災後に被災者の思いを実現し、被災社会に真に必要な復興まちづくりを可能とするのか。

東日本大震災の津波被災者が、どのように復興を考え、感じ、復興に取り組んでいるのか。2012年から毎年実施している「被災者の復興感」調査によると、日常生活の回復、仕事（収入）の確保、住まい再建の見通し、街・地域の復興の進捗が「被災者の復興感」を決定付けている。首都直下地震や南海トラフ巨大地震に対して、被災者のための災害復興を、迅速かつ有効に実践するには、復興対策も事前に準備し、事前に取り組んでいく「事前復興」学の発想とその構築及び実践が不可欠になっている。

## ◎進め方について

本題に入る前に、ファシリテーターの山川先生より、講師の中林先生からの説明時間を少し短めにして、その後は気軽な雰囲気での質疑応答時間を設けた旨が伝えられた。



(左：講師・中林一樹先生、右：ファシリテーター・山川充夫先生)

## ◎話題提供の主な事項

### □災害復興研究について

－災害復興に関する研究は、「事後復興研究」と「事前復興研究」に大別できる。

- ・「事後復興研究」＝災害発生後の復興の現実を対象とする研究。

実体として取り組まれた災害復興に学び将来の災害復興に活かす「復興検証研究」と、災害発生後に進行中の災害復興を対象としてモニタリングし、進行している復興に即時的に復興モデルや復興デザインを提案・提示して助言する「復興支援研究」に区別できる。

- ・「事前復興研究」＝まだ発生していない災害の被害想定から、迅速に復旧し着実に復興するための復興ビジョン、復興プロセスや復興施策・事業手法などを事前に検討、準備するための研究。事前に準備して備える「復興準備研究」と被害想定を基に目指す復興のために事前にできることを実践しておく「復興実践研究」がある。

#### □事後復興研究「復興感調査」について

－ファシリテーターの中林先生らが、震災前に岩手県大船渡市、宮城県気仙沼市、福島県新地町の津波被災エリアに居住していた方を対象に実施。

－被災者が感じる復興の規定要因とその推移を考察することを目的に実施。

⇒生活復興感と生活回復事項との重回帰分析を行い、被災後の生活復興感は、「食生活」、「仕事・収入」の回復、及び「住まい」の再建、「まち」の復興の動向が有意な規定要因となっていることを確認した。

#### □災害復興の4次元構造について

－上記の規定要因から、災害復興の4次元構造を導出する。

①地域復興（被災市街地・基盤）

②社会復興（コミュニティ再建）

③産業復興（被災企業・雇用）

④生活復興（被災家族・住宅）

⇒復興を考えていくにあたっては、基盤整備や地域での支え合い、仕事や住まいの再建・確保といった取り組みをどう連携させて進めるのかが重要になる。

#### □事前復興対策について

－事前復興対策の取り組みには、以下の5段階がある。

①どのような復興を目指すのか

・復興デザイン・ビジョン論……復興の目標像。合意の対象となる取り組み。

②どのように復興計画を策定するのか

・計画・事業ガイドライン論……目標に向かっての計画策定や施策立案。

③どのように復興を進めるか

・復興プロセス・運営論……計画や施策の実践過程であり復興の推進方策。

④どのように継続するか

- ・復興まちづくり訓練論……新しい防災訓練ともいえ、行政職員のマニュアル習熟と復興が必要になるであろうまちで住民と行政の模擬訓練。

#### ⑤どのように事前に実践するか

- ・事前復興まちづくり実践論……準備して待つだけでなく事前に実践する。

⇒最も大切なのは、復興目標となるまちづくり像（どのようなまちに復興するか）をみんなで考えておくこと。また、それを実現していくにはどのように今から取り組んでおくべきかを考えておくことである。

#### ◎質疑応答・意見交換について

ご講演の最後に、質疑応答・意見交換の時間が設けられた。

(以下、◆-参加者、○-講師、ファシリテーターとして一部紹介)

- ◆-東日本大震災で大規模な盛り土かさ上げ工事とかをしているところもあると思うが、もともとそこに住んでいた人がほとんど戻ってきて町が再形成されるなら良いものの、果たしてそれは現実的なのか。お金や時間をかけて大規模に土地を造成・再建しても、人が戻ってこなかったらゴーストタウンみたいになってしまうのではないか。
- 東日本大震災では、途中の修正できる時期はもう過ぎている。将来的に課題があるとすると、せっかく盛り土したのに活用しきれない、ということだろう。逆に、盛り土したところに産業が戻ってきて仕事がちゃんとあるということになれば、見なし仮設住宅で内陸部に移転した世代も帰ってきて仕事に就き、人口も少しずつ増えていく。そういった意味では、これから産業をどのように取り戻すかが非常に大きな鍵と言えるだろう。